

## 9 環境上の基準の概要

尼崎市の環境をまもる条例(平成12年尼崎市条例第51号)第20条第1項の規定に基づく大気汚染、水質汚濁、騒音等に係る環境上の基準は次のとおりである。

改正 平成22年3月4日

### 大気汚染に係る環境上の基準

物質	基準値	対象地域
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	尼崎市全域  ただし、車道 その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所を除く。
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.02ppm以下であること。ただし、当分の間、1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であること。	
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	
ベンゼン	1年平均値が0.003mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	
トリクロロエチレン	1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	
テトラクロロエチレン	1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	
ジクロロメタン	1年平均値が0.15mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	
微小粒子状物質	1年平均値が15µg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1日平均値が35µg/m <sup>3</sup> 以下であること。	

備考 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

### 水質汚濁に係る環境上の基準

#### 人の健康の保護に係る環境上の基準

項目	基準値	対象水域
カドミウム	0.01mg / 以下	公共用水域
全シアン	検出されないこと。	
鉛	0.01mg / 以下	
六価クロム	0.05mg / 以下	
砒素	0.01mg / 以下	
総水銀	0.0005mg / 以下	
アルキル水銀	検出されないこと。	
PCB	検出されないこと。	
ジクロロメタン	0.02mg / 以下	
四塩化炭素	0.002mg / 以下	
1,2-ジクロロエタン	0.004mg / 以下	
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg / 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg / 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	1mg / 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg / 以下	
トリクロロエチレン	0.03mg / 以下	
テトラクロロエチレン	0.01mg / 以下	
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg / 以下	
チウラム	0.006mg / 以下	
シマジン	0.003mg / 以下	
チオベンカルブ	0.02mg / 以下	
ベンゼン	0.01mg / 以下	
セレン	0.01mg / 以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg / 以下	
ふっ素	0.8mg / 以下	
ほう素	1mg / 以下	
1,4-ジオキサソ	0.05mg / 以下	

備考 1 公共用水域とは、水質汚濁防止法第2条第1項に規定する公共用水域をいう。

2 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は、適用しない。

3 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする

(2) 生活環境の保全に係る環境上の基準

水域区分		項目と基準値									水質管理区		測定基準点
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	化学的酸素要求量 (COD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素 (DO)	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	大腸菌群数	全窒素	全 <sup>りん</sup> 酸			
河川	1級水域	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/ 以下	—	20 mg/ 以下	5 mg/ 以上	—	5,000MPN /100m 以下	—	—	武庫川	武庫川上流 武庫川下流	武庫大橋 南武橋
											神崎川水系	藻川 神崎川	藻川橋 左門橋
	2級水域	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/ 以下	—	30 mg/ 以下	5 mg/ 以上	—	—	—	—	庄下川水系	庄下川上流 庄下川中流 庄下川下流 昆陽川	尾浜大橋 波洲橋 庄下川橋 尾浜端
											蓬川水系	蓬川上流 蓬川下流	南豊池橋 琴浦橋
	3級水域	6.5 以上 8.5 以下	8 mg/ 以下	—	50 mg/ 以下	3 mg/ 以上	—	—	—	—	神崎川水系	猪名川	戸の内橋
運河		7.0 以上 8.3 以下	—	8 mg/ 以下	—	2 mg/ 以上	—	—	—	—	運河		三ノ門
海域		7.8 以上 8.3 以下	—	3 mg/ 以下	—	5 mg/ 以上	検出されないこと。	50,000MPN /100m 以下	1 mg/ 以下	0.09 mg / 以下	海域		尼崎港中央 尼崎港沖

備考1 水質管理区とは、水域の特性、利水状況、下水道整備状況、工場立地、現状水質等を考慮し、市内の水域を区分したものをいう。

2 水質管理区のうち、武庫川上流は武庫川4丁目地先の潮止堰から上流、武庫川下流は当該潮止堰から下流、庄下川上流は尾浜大橋から上流、庄下川中流は尾浜大橋から波洲橋までの間、庄下川下流は波洲橋から下流、蓬川上流は南豊池橋から上流、蓬川下流は南豊池橋から下流をいう。なお、庄下川上流及び昆陽川についてはその上流河川及び水路を含むものとし、蓬川上流についてはその上流水路を含むものとする。

3 基準の適合状況については、測定基準点の水質によって判断する。

4 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

騒音に係る環境上の基準

(1) 一般騒音に係る環境上の基準

地域の 類型	基準値			
	道路に面する地域		その他の地域	
	昼間	夜間	昼間	夜間
A	60デシベル以下	55デシベル以下	55デシベル以下	45デシベル以下
B	65デシベル以下	60デシベル以下	55デシベル以下	45デシベル以下
C	65デシベル以下	60デシベル以下	60デシベル以下	50デシベル以下

- 備考1 時間の区分は、昼間を午前6時から午後10時までの間とし、夜間を午後10時から翌日の午前6時までの間とする。
- 2 地域の類型の当てはめについては、騒音に係る環境基準の地域の類型を当てはめる地域の指定（平成11年兵庫県告示566号）に準ずるものとする。
- 3 Aの地域及びBの地域の道路に面する地域（道路交通騒音が支配的な音源である地域をいう。以下同じ。）とは、Aの地域及びBの地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域をいい、Cの地域の道路に面する地域とは、Cの地域のうち車線を有する道路に面する地域をいう。この場合において、車線とは、1縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。
- 4 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。  
 道路に面する地域のうち幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表によらず、次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間とは、次に掲げる道路のうち、2車線以下の車線を有するものにあつては道路端から15mまでの範囲をいい、2車線を超える車線を有する道路にあつては道路端から20mまでの範囲をいう。  
 ア 道路法第3条に規定する高速自動車国道、一般国道、県道及び市道（市道にあつては、4車線以上の区間に限る。）  
 イ 前項に掲げる道路を除くほか、一般自動車道であつて都市計画法施行規則第7条第1項第1号に定める自動車専用道路

基準値	
昼間	夜間
70デシベル以下	65デシベル以下

- 備考1 個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準（昼間にあつては45デシベル以下、夜間にあつては40デシベル以下）によることができる。
- 2 時間の区分は、昼間を午前6時から午後10時までの間とし、夜間を午後10時から翌日の午前6時までの間とする。
- 3 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

(2) 航空機騒音に係る環境上の基準

地域の類型	基準値（単位 W E C P N L）
	70以下
	75以下

- 備考1 地域の類型の当てはめについては、航空機騒音に係る環境基準の規定に基づく地域類型をあてはめる地域及び区域の指定（昭和51年兵庫県告示第1376号）に準ずるものとする。
- 2 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

(3) 新幹線鉄道騒音に係る環境上の基準

地域の類型	基準値
	70デシベル以下
	75デシベル以下

- 備考1 地域の類型の当てはめについては、新幹線騒音に係る環境基準の規定に基づく地域類型をあてはめる地域及び区域の指定（昭和51年兵庫県告示第1377号）に準ずるものとする。
- 2 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

地下水の水質汚濁に係る環境上の基準

項 目	基 準 値
カドミウム	0.01mg / 以下
全シアン	検出されないこと。
鉛	0.01mg / 以下
六価クロム	0.05mg / 以下
砒素	0.01mg / 以下
総水銀	0.0005mg / 以下
アルキル水銀	検出されないこと。
P C B	検出されないこと。
ジクロロメタン	0.02mg / 以下
四塩化炭素	0.002mg / 以下
塩化ビニルモノマー	0.002mg / 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg / 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg / 以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg / 以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg / 以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg / 以下
トリクロロエチレン	0.03mg / 以下
テトラクロロエチレン	0.01mg / 以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg / 以下
チウラム	0.006mg / 以下
シマジン	0.003mg / 以下
チオベンカルブ	0.02mg / 以下
ベンゼン	0.01mg / 以下
セレン	0.01mg / 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg / 以下
ふっ素	0.8mg / 以下
ほう素	1mg / 以下
1,4-ジオキサン	0.05mg / 以下

備考 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

土壌の汚染に係る環境上の基準

項目	基準値
カドミウム	検液1 につき0.01mg以下であり、かつ、農用地においては米1kgにつき1mg未満であること。
全シアン	検液中に検出されないこと。
有機 <sup>りん</sup> 燐	検液中に検出されないこと。
鉛	検液1 につき0.01mg以下であること。
六価クロム	検液1 につき0.05mg以下であること。
砒 <sup>び</sup> 素	検液1 につき0.01mg以下であり、かつ、農用地(田に限る。)においては、土壌1kgにつき15mg未満であること。
総水銀	検液1 につき0.0005mg以下であること。
アルキル水銀	検液中に検出されないこと。
PCB	検液中に検出されないこと
銅	農用地(田に限る。)において、土壌1kgにつき125mg未満であること。
ジクロロメタン	検液1 につき0.02mg以下であること。
四塩化炭素	検液1 につき0.002mg以下であること。
1,2-ジクロロエタン	検液1 につき0.004mg以下であること。
1,1-ジクロロエチレン	検液1 につき0.02mg以下であること。
シス-1,2-ジクロロエチレン	検液1 につき0.04mg以下であること。
1,1,1-トリクロロエタン	検液1 につき1mg以下であること。
1,1,2-トリクロロエタン	検液1 につき0.006mg以下であること。
トリクロロエチレン	検液1 につき0.03mg以下であること。
テトラクロロエチレン	検液1 につき0.01mg以下であること。
1,3-ジクロロプロペン	検液1 につき0.002mg以下であること。
チウラム	検液1 につき0.006mg以下であること。
シマジン	検液1 につき0.003mg以下であること。
チオベンカルブ	検液1 につき0.02mg以下であること。
ベンゼン	検液1 につき0.01mg以下であること。
セレン	検液1 につき0.01mg以下であること。
ふっ素	検液1 につき0.8mg以下であること。
ほう素	検液1 につき1mg以下であること。

備考 測定及び評価の方法並びに基準値等の解釈は、環境基本法第16条第1項の規定による基準に準ずるものとする。

ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境上の基準

媒体	基準値	対象地域等
大気	0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下	車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所を除く。
水質 (水底の底質を除く。)	1pg-TEQ/以下	公共用水域及び地下水
水底の底質	150pg-TEQ/g以下	公共用水域の水底の底質
土壌	1,000pg-TEQ/g以下	廃棄物の埋立地その他の場所であって、外部から適切に区別されている施設に係る土壌を除く。

備考1 公共用水域とは、水質汚濁防止法第2条第1項に規定する公共用水域をいう。

2 測定及び評価の方法、基準値等の解釈は、ダイオキシン類対策特別措置法第7条の規定による基準に準ずるものとする。